



令和3年度日本博主催・共催型プロジェクト
 主催：文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会、
 公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団



公演記録鑑賞と講座

御冠船躍の彩々

おかんせんおどりのいろいろ

2021.10.12(火)
 18:00開演(17:15開場)
 国立劇場おきなわ 大劇場

■チケット販売開始

令和3年9月27日(月)

■料金 500円(全席指定)

■ご予約

国立劇場おきなわチケットカウンター

【窓口10:00~18:00 電話10:00~17:30】

TEL. 098-871-3350



〒901-2122 沖縄県浦添市勢理客4-14-1
<https://www.nt-okinawa.or.jp>



※やむを得ない理由により、内容・予定等を変更する場合があります。中止の際は、返金いたしませんのでご了承ください。

新型コロナウイルス感染予防対策にご理解とご協力をお願いいたします。詳細はホームページをご覧ください。

「からくり仕掛け花火」第三弾

公演記録鑑賞と講座 御冠船躍の彩々

琉球王国時代、中国から訪れる冊封使を「ウトゥイムチ（お取り持ち）」するため、様々な催しが行われた。組踊や琉球舞踊をはじめ、古来の舞踊・入子躍や棒術、獅子舞などが首里城の舞台で演じられ、龍潭における爬龍船競漕や首里城の御庭における花火さえも宴に花を添えてきたのである。これまで、組踊と琉球舞踊に多くスポットが当てられてきたが、もともと舞台芸能ではなかった獅子舞や棒などもまた、琉球国の「ウトゥイムチ」であった。その中から、「入子躍」「獅子舞」「唐棒」「からくり花火」に着目する。

いずれも当時の資料が少なく、また、今日に伝承されなかったものだが、文献による復元の試みや地域に伝承する同系列の芸能を手掛かりとして、王府時代の姿に思いを馳せる。入子躍研究の金城厚、「検証 沖縄の棒踊り」著者・勝連盛豊、地域芸能研究の神谷武史を講師に迎え、からくり花火は茂木仁史が解説し、映像鑑賞や花火の実演も行う。

10/12 火 18時開演 国立劇場おきなわ大劇場 プログラム

一講座・映像鑑賞一

◆「沖縄棒踊りの源流を追う」

勝連盛豊 かつれん せいほう

（著書：『検証 沖縄武術史 沖縄武技―空手』沖縄文化社、2017年
『検証 沖縄の棒踊り』沖縄文化社、2019年）

◆「志多伯獅子舞と地域興し―型の実演と解説―」

神谷武史 かみや たけふみ

（沖縄県立芸術大学音楽学部音楽学科音楽文化専攻沖縄文化コース講師）

◆「入子躍からはじまる」

金城厚 かねしろ あつみ

（東京音楽大学教授、沖縄県立芸術大学名誉教授）

◆「琉球国のからくり花火」

茂木仁史 もぎひとし

（国立劇場おきなわ 調査養成課長）

一実演一 於：組踊公園 芝生広場

花火・からくり物「大団扇」

からくり製作 / 金城裕幸

花火構成 / 金城義信



●お問い合わせ

国立劇場おきなわ調査養成課

TEL. 098-871-3318 (平日10:00~18:00)